

# J-クレジット制度を活用して 水稲の「中干し期間の延長」の取組が広がっています！

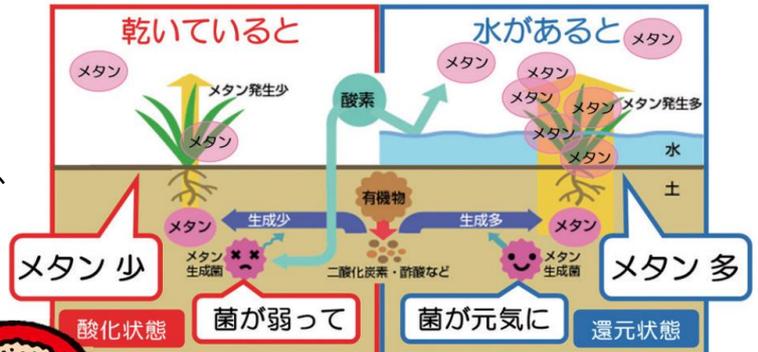
## J-クレジット制度とは

温室効果ガスの排出削減量を国が「クレジット」として認証する制度です。  
農業者の皆さんは企業等に**クレジットを販売**し、**収入を得る**ことができます。



## 稲作と温室効果ガスって関係あるの？

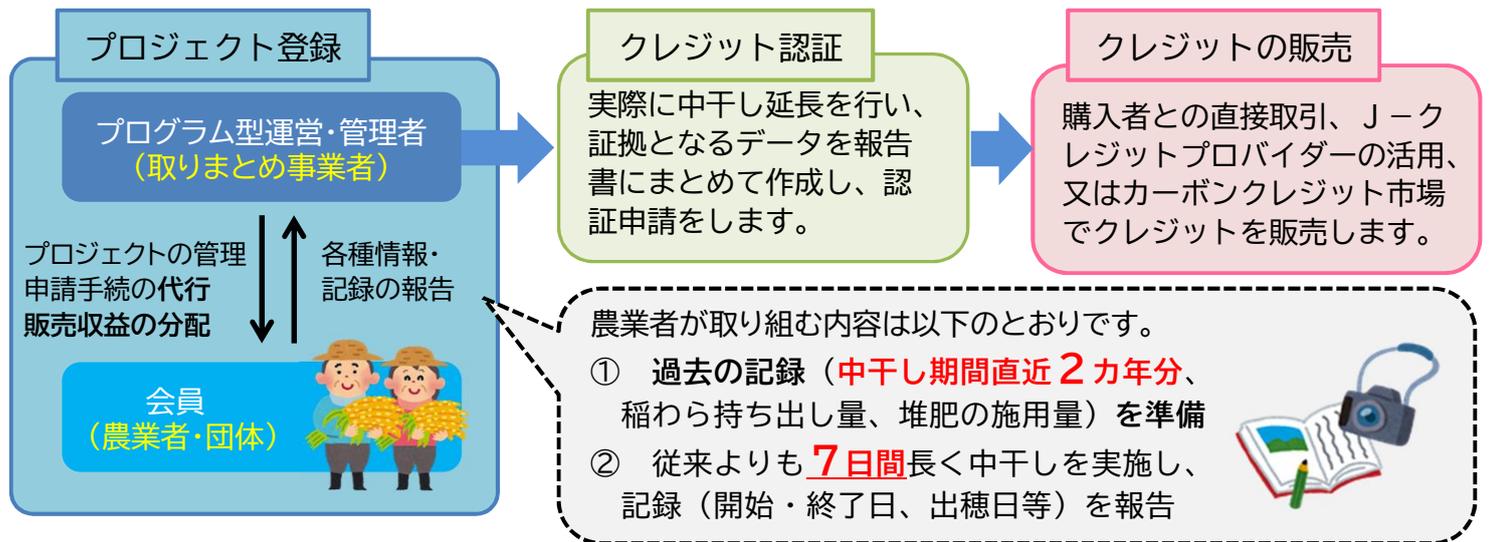
- ・ 水田では、**水を張った状態で活発に働く**メタン生成菌が、土壌中の稲わらなどの有機物を分解して、温室効果ガスである**メタン**を発生させます。
- ・ メタンの温室効果は二酸化炭素に比べて**28倍**もあり、削減による温暖化抑制効果が高いと言われています。
- ・ **中干しの期間を従来より1週間延長すれば**、メタン生成菌の働きが抑えられ、**メタン発生量を3割削減**することができます。



(図の出典：農研機構)

## どうやって取り組んだらいいの？

- ・ 農業者は、プログラム型運営・管理者（取りまとめ事業者）の会員となり、**必要な情報・記録を報告**します。
- ・ 取りまとめ事業者は、クレジット認証や販売を代行し、販売収益を会員に分配することで、農業者は収入を得ます。
- ・ 県内では、農協や自治体、金融機関等が事業者の紹介や申請等の支援を行っている事例があります。



## どのくらいの収入になるの？

- ・ 得られるクレジットの量は、水田の**排水性や施用する有機物**により異なります。また、クレジット単価は購入者との相対取引で決まります。
- ・ モデルケース（排水性が十分良い水田で、前作の稲わらを全量すき込んでいる場合）の試算では、**4,000円/10a**程度の収益を想定しています（取組可能期間は最大8年間）。（森林系クレジットと同様に、10,000円/tCO2で販売できた場合）



※ 出典：東北農政局HP「農林水産分野のJ-クレジット制度について」より引用

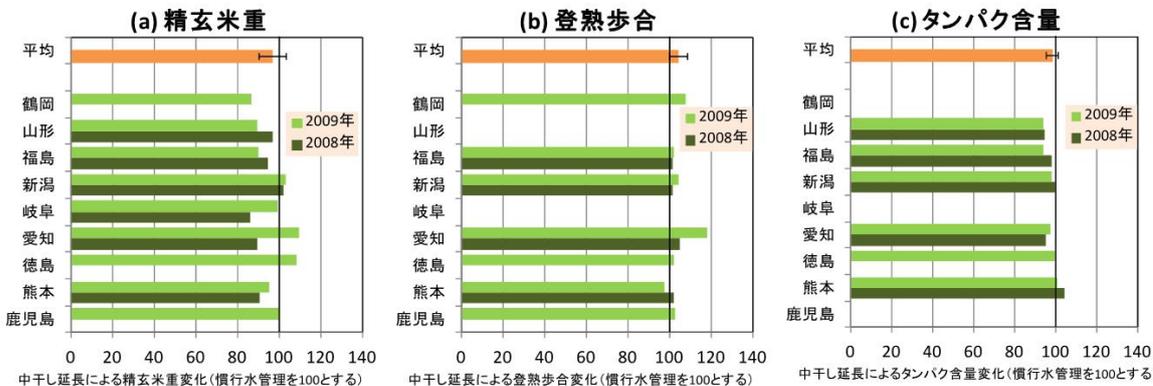
# 留意事項



中干し期間の延長には、環境負荷の低減や収益化のメリットがありますが、以下のような**影響**について**留意**する必要があります。

## 1. 収量・品質への影響

○ 全国8県で実施された栽培試験では、中干し期間の延長により**平均3%程度**の減収が報告されています。一方で、登熟歩合の向上やタンパク含量の低下など、**品質の向上**が報告されています(図1)。



※出典「水田メタン発生抑制のための新たな水管理技術マニュアル」  
H24.8 (独)農業環境技術研究所

図1 8県9カ所における水田メタン削減試験における中干し延長による収量・品質の変化

### 中干し期間を延長する際の栽培上の注意点



図2 中干しの目安 図3 強度の中干し  
軽く踏んで足跡がつく状態が目安

- ◇ 過度の土壤乾燥などが減収に影響する可能性があるため、水持ちの良い圃場を選び、強度の中干しは避けましょう(図2, 3)。
- ◇ 水持ちの悪い圃場(減水深3cm以上)や生育が遅れている圃場では、中干しの延長を控えましょう。
- ◇ 中干しの開始目安となる目標穂数の8割以上の茎数を早期確保するため、健苗育成や、栽植密度の確保(18~21株/m<sup>2</sup> [60~70株/坪]、株当たり4~5本)を心掛けましょう。



### 【幼穂形成期の低温回避】

- ◇ 茎数を早期に確保し、幼穂形成期頃までに中干しを終わらしましょう。
- ◇ 気象予報により、幼穂形成期に17℃以下の低温に遭遇する恐れがある場合は、中干しを終了し、冷害対策の前歴深水(水深4~6cm)を優先しましょう。

## 2. カドミウム吸収への影響

- 土壌が乾燥して酸化状態になると、土壌に含まれるカドミウムが水に溶け出し、農作物に吸収されやすくなります。このため、過度の中干しは**玄米中カドミウム濃度を上昇**させるリスクを伴います。
- 玄米及び精米中のカドミウム濃度が0.4mg/kgを超えると、食品として販売できなくなる(食品衛生法)ため、食品安全の確保を最優先し、地域の実情に応じて適切な中干し期間を設定しましょう。

## 3. 水生生物への影響

- 中干し期間を延長することで、**水生生物への影響**が生じる可能性があります。
- 水生生物への影響が想定される場合は、ビオトープや中干しをしない水田を確保する等、地域の実情に応じて対策を検討しましょう。